

いつも大変お世話になり、ありがとうございます。

**先月、プーチン大統領の指示で、ロシア軍がウクライナを侵略しました。**「現代にこんなことがあり得るのか」と多くの方が驚きました。私は、2014年の活動報告3月号に同じプーチン大統領がクリミア半島を攻撃したことについて「新しい時代の幕開け」と表現しましたが、今回のウクライナ戦争はその延長線です。

我が国は、当然、こうした力による現状変更に対して強く抗議をし、欧米各国と連携して経済制裁に加わっています。なぜなら、**今回の侵略は我が国にも決して他人事ではないからです。**

**同じような独裁体制をとって、同じように領土拡張を狙っている国が中国です。**習近平主席は、プーチン大統領と裏で連携し、「中露は、同盟以上の絆の強い関係」と公式にも発言しています。そして、目を皿にして、今回の暴挙に対して日本や欧米諸国がどのように反応するのか、じっくりと観察し、分析をしています。

**軍事専門家の間では、「中国は今後5年の間で台湾に武力行使をする可能性がある」と言われています。**中国は、ウクライナ戦争をその時の参考にしているはずです。

**だからこそ、日本は国益を踏まえて、こうした武力に対しては勇敢に立ち向かうという姿勢を示すことが大事です。**おそらく中国は日本や欧米に対して、闘う根性が弱っ

ていると甘くみていましたが、今回の西側陣営の結束と行動力を見て、自分たちの誤算を反省していると思われれます。

**経済制裁は、ロシアに被害を及ぼすだけでなく、燃料や食料の物価上昇や輸出の減退により、一時的に我が国にも跳ね返ってきます。**そこは政府が景気を支えるための支援をしつつ、一ミリも動じずに、あくまでも欧米と連携をすべきです。これはロシアだけでなく、**中国に対する我が国の決意を示すこととなります。**

他方で、中国は同じような制裁を課された場合に、どのように被害を抑えられるか、猛烈に研究をして、日欧米の包囲網に対する手立てを考えています。**日本も台湾海峡あるいは沖縄に対する中国の侵攻に備えて、防衛費を増やし、中距離弾道ミサイルなど配備し、隙を与えない体制を構築すべきです。**

話し合いも大事ですが、冷徹な国際政治の中ではやはり「力」がものをいうのが、残念な現実です。これは21世紀でもなかなか変わりません。**「優しく語りなさい、でも大きな棍棒を忘れるな」という西アフリカの格言がありますが、古今東西、これが平和への唯一の現実的な道です。**

(令和4年3月22日 作成)